

技術条件書

公募する新技術

「都立町田の丘学園改築工事の開口部の断熱・遮熱に関する技術」

立地条件（多摩丘陵）、建物用途（学校）を考慮しつつ、建物の省エネルギー化に寄与する開口部の断熱・遮熱に関する技術（ガラス、サッシ）を公募する。

本公募で求める技術条件を以下に示す。

A 性能基準

・断熱性

ア 日本工業規格 A4710-2015 に定める方法、又はこれと同等の方法により測定もしくは計算で求めた、ガラス+サッシの熱貫流率 $[W/m^2 \cdot K]$ が $3.5 W/m^2 \cdot K$ 以下であること。（数値および算出方法を記載のこと。）

・遮熱性

イ ガラスの日射熱取得率が 0.5 以下であること。

・気密性

ウ サッシの気密性は、J I S 等級A-3 以上であること。

・光学特性

エ 採光性を確保するため、ガラスの可視光透過率は 60%以上であること。

B 機能性

オ サッシの耐風圧性があること。（J I S 等級を記載のこと。）

カ サッシの遮音性があること。（J I S 等級を記載のこと。）

キ 損傷した場合、破片によるけがへの配慮があること。

ク ガラスの汚損、劣化がしにくいこと。

ケ 自然換気への配慮があること。

コ メンテナンス性（清掃、ガラス破損時の取替の容易さ等）に優れたものであること。

サ 撤去時における廃棄物削減やリサイクルの容易さ等、資源の有効利用が図れるものであること。

シ 意匠性に配慮したものであること。

ス その他、より機能性を高める工夫や特筆すべき事項があれば記載すること。

C 先進性

セ 特許等の取得あるいは申請の状況、技術論文の公表、受賞履歴、業界誌や新聞など紙面上の技術紹介により先進性が確認できること（自社のホームページのみの紹介は不可）。

D 経済性

ソ イニシャルコストは、教室における腰窓（1 教室分の想定開口部面積約 $10 m^2$ （幅約 $5m \times$ 高さ約 $2m$ ）における工事費（材料費および施工（歩掛）費）を算出すること。

タ 65 年のトータルコスト（イニシャルコスト+ランニングコスト）に優れたものであること。

なお、応募者における推奨耐用年数が 65 年以内の場合は、更新費用（材料費および施工（歩掛）費）を記載すること。

※トータルコストのうち空調設備の光熱費は、同一の建物用途である都立某学校の建物条件を基に、技術審査委員会にて算出します。なお、エネルギー消費量の算出にあたっては、国立研究開発法人建築研究所より公開されている「省エネルギー基準（平成 25 年 1 月公布）及び低炭素建築物の認定基準（平成 24 年 12 月公布）の告示に沿った計算方法（プログラム等）」を用います。

E 施工性

チ 施工実績がある、もしくは施工が確実にできるものであること。

ツ 工事全体の工程に大きな影響を与えず、制約条件が少ないこと。

以上